第２回県立高等学校改革懇談会（平商業・四倉）記録

日　時　　令和５年１月１０日（火）１５時００分～１６時３０分
会　場　　四倉高等学校　講義室
傍聴者　　５名

進行
（１）　開会
（２）　主催者あいさつ
【菅野崇】(県立高校改革監)
　本日は、新年早々、今日はまた温暖ないわき地区としては珍しく雪という中、お忙しいところ御出席頂きまして、誠にありがとうございます。前回、平商業高校・四倉高校の令和８年度の統合計画というものをお示ししているところでございますが、その後、両校の学校運営ですとか、生徒・教職員に対します、変わらぬ御支援を頂いておりますことに関して、厚く御礼申し上げたいと存じます。前回の改革懇談会の中では、いわき市の内田市長にも御出席を頂きまして、「県立高校改革後期実施計画」を策定いたしました経緯ですとか、あるいは両校のおかれている現状、統合の方向性などについて御説明を申し上げたところでございます。その上で、両校の統合に関しましては、一定程度の御理解は頂いていると受けとめております。ただ、その際、委員の皆様の中から、統合校の教育内容につきまして、「生徒のために何が必要なのか、そういったものをきちんと捉えて検討してほしい」ということですとか、あるいは、「地域の特性や関わり、こういったものを組み入れた取組というものが非常に重要になってくるのではないか」というような御意見を頂戴しております。本日の懇談会におきましては、前回頂きました御意見などに対しまして、その後県教育委員会の中で検討してきました内容を御説明いたしまして、また更に委員の皆様から御意見を頂いて、さらに検討を深めて参りたいと考えてございます。本日も忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

（３）　説明（担当）
（４）　懇談（司会：菅野県立高校改革監）

＜懇談＞
【菅野崇】(県立高校改革監)
　以上が、前回の改革懇談会で頂いた御意見を基にして、両校の教職員や教育内容検討員会で検討してきた内容になる。本日も、御意見を賜り、検討を深めて参りたい。

【小西秀典】(平商業高校同窓会長)
　知り合いの中学生に、今の平工業高校は、どこの科が一番人気なのかと聞いたら、私たちの頃は土木科だったが、今は情報科、高等専門学校もやはり情報関連の科が中学生に人気であると。経済指標は、昔は建設業界が中心だったが、最近は完全にＩＴ関連ということもあり、高校もどの学校にしても、情報関係、ＩＴ関係に人気が集まるというのが当然の流れだと思う。

商業教育、全国的に「情報」という部分の教育から乗り遅れたのではないかと、１０年前に一度提案したことがある。毎年、入学式の挨拶の際、生徒に話をしているが、「平商に入って何を一番学ぶといいと思うか」ということを、是非親御さんと話し合ってほしいということをずっと言ってきている。なぜなら、商業高校の数が減って、募集定員も少なくなっている。商業高校は何を学ぶところかという部分で、ＩＴに関する技術系、パーソナルコンピューターを操作するところから始まって、システムまたＯＡ機器など、商業高校が窓口に社会状況としてなっていない。私は、商業高校の技術と思っていたが、技術系の方の工業高校や高等専門学校が情報を学ぶべきところだという流れになってしまっている。商業高校の立ち位置について、１０年前からずっと気にしている。苦し紛れではないが、一番は商業高校に入学したのだから、資格取得の他に、個人のコミュニケーション能力を高めること、高校を卒業して就職を考えている子たちは特に考えてほしい。企業は即戦力を求めていない、コミュニケーション能力の高い子は間違いなくものになっていると。コミュニケーション能力が高めることをこの高校に来た一番の武器としてほしいということをずっと生徒たちに話している。

先ほども言ったが、全国的にも商業高校の立ち位置はとても曖昧になってきている。高度経済成長期は、商売する子は平商へ行って、大学進学を考える子は進学校へ行くべきだと言う話をよく親がしていたのを覚えている。そうであれば、統合を機に、他の技術系の学校、特に情報系の学校とここが違うという特色をこの３年間で話し合えればと考えている。

【中野正人】（県立高校改革室長）

商業高校におけるＩＴ分野での教育内容が変わってきてしまっているのではないかという御指摘だと思う。以前は、工業高校や商業高校において「情報」の分野については、より専門的な部分についてもそれぞれの学校で担ってきていた。しかし、昨今、その商業系の学びの在り方は変わってきており、ＩＣＴあるいはＩＴに関するハード部分の専門的な部分はある程度学びながら、ソフトの利用に力点をおいて学んでいる。要はビジネスを担当して、世の中で働いていく中では、ソフトを活用できる力が求められるようになってきた。統合校においては、従来の商業科の中の情報分野「情報システム科」、これは継続させていく計画になっている。加えて、県内で初めての専門教科「情報科」の学科、「情報科」を開設するという計画になっている。工業高校の情報系の分野、あるいは、高専での専門的な分野と並ぶ、あるいはそれを越すような学科にしたいと考えている。システムエンジニアあるいはＣＧや画像を駆使した技術が使えるクリエイターへつながるようなことを学ぶ学科としていきたい。情報系、情報に関する技術・知識を持つ人材というのは、今、非常に求められている。そのところは、しっかりと把握した上で、他県の先進校の事例も参考にしながら、より魅力的な学科、学び、カリキュラムを今後更に検討を進めていきたいと考えている。

【小西秀典】(平商業高校同窓会長)

今の話では、技術系、ハード系の学習をするのが高等専門学校、工業高校。しかし、親御さんからすると、情報系が学べる学校がたくさんあるが正直言って興味がない。昔は、平工、高専を目指す人たちは工業系の、技術系のところに勤めたいという目的があって進学していた。平商はどうか。一昔前だと、銀行に就職した卒業生はたくさんいる。当時はそろばん、簿記など、即戦力とまではならないがそれに近いことが高校で学べるということだったから。今回四倉高校との統合でデュアルという学びが入って、在学中に実際に社会体験ができて、

即戦力に少し近づいた形ができるのではないかと期待を持っている。２つの学校が統合しても、ソフトの部分が中心だと言われれば昔の商業科の大きな仕組みのときと呼び方や内容が変わるだけで何ら変わらないと思う。そうであれば、この統合を機に色々とＩＴ技術が変化していく中で、ソフトを使いこなす機会をこの高校では進めていき、より即戦力に近い学びをデュアルを含めてできるといいと思う。この３年半の間に新しい高校に統合してなるのであれば、それを前面に受験する子たち、親御さんたちに、平商・四倉統合校のやるべき姿がはっきり分かる形で示してほしい。統合校に行って就職ないしは、さらに進学を目指す上では、商業高校でも進学率が非常に高くなってきており、その分親御さんのかなり負担が増えてきている。社会情勢がどうなるか分からない中で、統合校を卒業したいという者がいるのであれば、統合校ではその即戦力に近い人材を育成できるということを、何らかの形で広報できる方法はないかなと感じる。

【中野正人】（県立高校改革室長）

生徒達が地域に出て地域の企業と協力しながら、商品開発など、ものを作り出すことは、今現在、平商業高校で取り組んでいる。今後はその部分を発展させていきたいと考えている。また、工業高校は「ものづくり」、商業高校は「人づくり」とよく言われる。会長が言われているとおり、「商業高校で学び、社会に出た時に即戦力となるような力を付けさせていくべきだ」という意見はもっともだと思う。両校の先生方と一緒に、その部分はしっかりと押さえながら、統合校の在り方を検討していく。

【緑川直行】(有識者)

今の説明を受けた情報科等については良いと思う。もっと早くこのような学科があっても良かったかなと思う。高専にもコミュニケーション情報科がずっと前からあるので、そういう意味ではいいのではないかと思う。しかし、情報技術科の部分を見て、四倉高校との統合ということを考えると、どこに四倉高校の部分があるのか、よく分からない。また、資料の１９ページで連携先として四倉町商工会と書いてあるが、四倉高校だと、四倉中、久之浜中、草野中、平一中、二中、三中といった常磐線沿線の子ども達が通いやすいということで入学している。平商業高校だと、いわき市全体になる。ということを考えれば、職業体験は四倉町商工会が特別なわけではなく、いわき市全体をにらんでやるべきことだと思う。

あと、四倉が出てくるのは、ここでいうとねぶたの写真。平でも夏祭りや七夕があるし、そちらへの参加も考えたらいっぱいなのではないか。ここには、第一回の懇談会で「四倉の郷土愛などを繋げてほしい」ということを言ったので載せてあるのだとは思うが、今後、これが本当に実施されていくのかなと。最初の数年は、実施するかもしれないが、統合校に入る子ども達が、「私達は平なのに、どうして四倉なの」となるかもしれない。職場体験だったら、家の近くの企業になり、いわき市全体になると思うので、難しい課題なのかなという気がする。

先程言ったが、学科ではどの部分で四倉らしさが引き継がれるのか。もし、それがデュアルということであれば、デュアル自体は、実際まだやっておらず来年度から実施する予定だ。令和２年２月に、前の前の校長先生から話があり、今年、四倉町の会社とも話をして、来年度協力するということを取り付けた段階であり、まだ成果は出ていない。まして、職場体験は、多分どこの学校でもやっていると思う。デュアルは、その職場体験の回数、日数が多いということだと思うが、四倉高校と統合しなくても、平商業高校でもデュアルは、できるの

ではないか。
　また、前回、資料をたくさん頂いたので確認させてもらった。元々、四倉高校は「キャリア指導推進校」に位置付けされている。いわき市内の高校で言うと、磐城高校が「進学指導拠点校」、桜が丘高校やいわき光洋高校が「進学指導重点校」、そして「キャリア指導推進校」、それから「職業教育推進校」ということで、各学校が改革で目指すところということが記載されている。それがいつの間にか、四倉高校は「キャリア指導推進校」から「職業教育推進校」の欄に入って、平商業高校と統合ということになっている。多分、どこかでパブリック・コメントなどをやっていると思うが、大元の基本計画でのパブリック・コメントか、前期計画・後期計画のパブリック・コメントなのかわからないが、高校の目指す方向性が変わってしまうというのは、相当大きな変更だと思う。その部分で、どのような意見があったのか。それから、今まで、前期計画で統合してきた学校や後期計画で統合する予定の各学校を見ると、どこも「キャリア指導推進校」とか「職業教育推進校」など、同じ群の中での統合になっている。一つだけ違うのは、福島西高校「進学指導重点校」と福島北高校「キャリア指導推進校」の統合である。ただ、両校のカラーで分けてみると、福島西高校が「普通科」と「デザイン科学科」、福島北が「総合学科」だが、総合後は「デザイン科学科」、「総合学科」、あと「探究科」という新たな学科ができるということで、どちらの学校のカラーも継続される。「普通科」という学科が「総合学科」で網羅できるということであれば、両校のカラーが維持されていると思う。ただ、今回の四倉高校は、学科も無くなってしまう。デュアルが職業的だというのかなと思って見ると、四倉高校のデュアルは計画段階で実際まだやっていないが、田村、船引、石川は以前からデュアルをやっている。田村は平成２１年からやっていて、他もすべて「キャリア指導推進校」である。つまり、四倉高校の前の位置付けのところだ。デュアルだから職業的だということではなく、やろうと思えば、どこでもできるものだと思う。そのようなことを考えると、統合校のどこに四倉高校の学びがあるのだろうか。平商業高校と四倉高校が、好間高校よりは近いから四倉高校なのかなという気がしてしまい、その部分が疑問として、ずっと残っている。例えば、いわき市全体で、子ども達が減って今の割合でいくと今後どのくらいになるか、これは数字で出せると思う。毎年、高校入試のときに、例えば、普通科を目指す人は定員割れをしている、商業科を目指す人は応募してくる人が多い。それらを合わせると、普通科、ちょうど四倉高校の２学級分は、いらなくなるっていうことであれば、なんとなく理解はできるが、四倉高校と、平商業高校のいいところを取って統合して、四倉高校が無くなる、学科もなくなるというふうに感じる。どうして、もっと地元に対して説明をしないのかなと思う。令和元年の他の懇談会の中でも、「説明会等の順番が違う」とか「地元や関係者への丁寧な説明が必要だった」という話が出ていると思う。他の地域では統合に関する地元への説明というのがなされたかどうか。そのような他の懇談会で出た意見は、おそらくその後の懇談会でも同じように出ると思うので、そういう部分は、真摯に対応した方が、統合の話があってももっと前向きに、子ども達にいいように検討したいと思う。そのためには、そういう部分、地元をもっと県教委が大切にしないといけない、学校ができたら協力してほしいだけではないと思う。学校に対する気持ちは熱いものはあるし、自分が習った学校でもあるし、自分の子どもが通う学校でもあるわけだから、学校を悪くしたいと思う人はいない。みんなが学校を良くしたいと考えているのだから、そのような協力を得るためにも、地元に丁寧な説明をして欲しい。その四倉高校の位置付けが変わってしまったことに対するパブリック・コメントがどうだったのか知りたい。
　それから、前回の懇談会の説明の中で「３学級は、望ましい学校規模ではない」、「先生の

数が少なくて、きちんとした指導ができない」と話をしていた。勿来高校は２学級のままだ。ここは、今後統合されるのか。また、福島県全体で見てみると、川俣高校、猪苗代高校、只見高校などは、学級数が２学級から１学級に減って、それでも学校を維持するような形である。結局、３学級以下が駄目だという話ではないと思う。

あと、これから入学する子ども達、それから、今実際に高校で勉強している、四倉高校で勉強している子ども達に、今後の統合する学校の学科やカリキュラム、習うことが本当に魅力的なのか、皆がやってみたいと思うものなのかについて、アンケートを取るなど、子ども達の考えを取り入れるようにしていただきたい。大人だけで検討しても子どもたちが習いたいことではないということもあると思う。

【中野正人】（県立高校改革室長）

「３学級以下は」という部分であるが、この前期・後期の改革計画の大元になっている「県立高等学校改革基本計画」は、福島県学校教育審議会の答申を受けて、望ましい学級規模を「４から６」としている。それを受けて基本計画を策定している。この基本計画の中には、３学級以下の高校については隣接する市町村の場合あるいは同一市町村の場合もあるが、学びの内容を踏まえ、統合を推進すると示している。この基本計画については、策定が平成３０年５月になるが、それに先立ち、前年度の段階で県内７か所において、教育公聴会を開催し、内容について御意見を頂戴するとともに、パブリック・コメントも実施した。四倉高校と平商業高校の統合については、四倉高校は、普通高校でありながら子ども達の進路実現を図っていくために商業教育や地域と連携した学びというものを早くから取り入れて実践していた。そのような部分で、平商業高校との学びの親和性があるというところも鑑みて、両校の統合を考えたところである。

【鈴木美津子】（四倉高校ＰＴＡ会長）

あまり難しい話はできないが、話を聞いていて内容的に少し難しいかなと、私個人的に感じた。あと１点、四倉高校の状況として、少人数制の指導、発表することが苦手とか、質問しにくい生徒たちが、気軽に先生と接しながら学んでいく。商業的なことも確かにやっていたということであるが、そこにつなげていく前の段階、難しいことをいきなり出てきても戸惑ってしまうような感じの子ども達が多いのかなと思う。基礎的な学習の定着、徹底ということを目指しながら、学び直しの生徒が多いのが現状だと思う。高校に来てもう一回頑張ってみようという気持ちをもって四倉高校に来る生徒も多いと思う。その中で２００人を超える大きな学校に、今、５０～６０人ぐらいの小さい学校にいる子ども達が２年間そこに行ってどうなるのかなというところもある。正直不安だと思う。大きいところに行っても対応できる子どももいるとは思うが、戸惑う子どもも多いと思う。また、デュアルについても先ほど話の中でいろいろと話があったが、四倉高校のデュアルに参加する企業、地元の３４社ぐらいの名前が挙がっていると思う。それも大体、四倉地区を中心とした企業が多いと思う。そういうことを来年度から取り組んでいくが、それを統合校で行うときにいわき全体に広げていけるものなのかなというところもある。あとは、その郷土愛を育む取組の部分で、四倉地区のことが出ていたが、この地区での学びは継続的に行っていって欲しいと思う。

【菅野崇】(県立高校改革監)

四倉高校に入学して、在学中に統合を迎えた状況で、急に大きな学校へ通うことになり環

境が変わってしまうと子どもたちが心配であるという話だったと思う。原田校長先生、実際に四倉高校の生徒を見ていてどのように感じているか。

【原田大輔】（四倉高校長）

令和６年、令和７年に四倉高校に入学した生徒、令和８年度に統合を迎えた時点の２年生、３年生の話であると思う。本校は、今全部で１５０人の生徒がいるが、少人数の中で「学びなおし」をして、頑張って社会に送り出すというコンセプトで、きめ細かい、生徒に寄り添った学習指導というものを展開している。そのため、人数が少ない環境が良くて入ってきているという生徒が、実際に多い状況である。楢葉町や広野町、富岡町からも子ども達が来ているが、生徒たちに説明会で尋ねたところ、双葉地区には先進的な取組をしている学校があるが、そのような大きいところで先進的な取組をするよりは、四倉高校のような小さいところで、しっかりと先生方に質問などをしながら基礎的なことを学びたい、大きいところは苦手だという生徒が一定数いる。あともう一つ、地理的な問題もある。平二中学校や東日本国際大学などがある、いわき市平の「鎌田山」のラインより北側から本校に通学する生徒、平二中・草野中・四倉中・久之浜中だが、四倉高校全体の７０％いる。ということは、地理的に、ここに根差した学校であり、いわき北部、いわき駅より北側の唯一の学校である。地域と連携した学校作りをしており、先程来、話が出ている四倉の夏まつりやこの地域の行事、地域関係機関との連携で四倉町にはお世話になっている。いわき北部地区中高連絡協議会とでは、地域に根差した取組をしているところである。そういったことを鑑みて、大きい学校で、みんなで勉強するというのは、スケールメリット、統合の成果として、必要な部分もあるかもしれないが、四倉高校を選んだ生徒については、やはり「少人数でしっかりとやっていきたい」という子たちが多いという傾向があるので、生徒の実態を鑑みると「生徒ファースト」という考え方になるが、いわゆる「校舎方式」、令和８年度の２年生、３年生については、この場所（四倉高校）で卒業まで面倒をみたいというのが、我々の方の要望である。「生徒ファースト」と「激変緩和措置」ということで。そのことも汲んでいただければありがたい。

【中野正人】（県立高校改革室長）

統合して大きな学校に急に通うこと、統合を機に一緒の生活になることに対しては、不安を感じるだろうという生徒を心配する意見を頂いた。先程、校長先生の方から話があった「校舎方式」であるが、前期計画での統合では、このいわき地区では湯本高校と遠野高校の統合で、同じように「統合後、大きな学校で一緒に生活をすると、なかなか学校生活がうまくいかなくなってしまうような生徒が出るのではないか」という心配の声を頂いた。そのときに、「統合前に入学していた高校の校舎で、統合後もその校舎を引き続き、学びの場として使い、卒業までその校舎で学べるような方法がとれないか」という話になったものであり、入学した高校で、卒業までその校舎を使うということを便宜上、「校舎方式」と呼んでいるが、そのような対応をとったところである。今ほどの話からすると、そのようなことも考えていく必要があるのではないかと捉えている。今後、検討をして、改めて提案させていただきたい。

また、デュアルが平全体での取組になるのではないのか、四倉地区での取組は、なくなってしまうのではないか、という懸念の話も頂いたが、統合校においては、統合の対象となっている地域は継続して学びのフィールドとして、地域の方々にも携わって頂きながら子ども達の教育を展開していきたいと考えている。地域との関係が途切れないようにという話も頂

いた。まずは、どのようなことができるか、今回スライドの方に提案したが、その部分も含めてどのような内容がより郷土愛を育む取組になっていくのかを考えていきながら、今後より具体性をもって示していければと思う。

【緑川直行】(有識者)
今の生徒の話は、令和６年、７年に四倉高校に入学した子ども達のことだと思う。ということは、統合後、新しい学校ができた後も、そのような生徒は、一定数いるのかなという話である。高校では、主に進学を目指す、工業や農業や商業などの専門性を身につける、生徒の将来に繋がる夢を実現するための場所だと思う。しかし、中学生の段階では、まだ将来の夢が描けない子ども達、例えば、商業を選ぼうとか工業を選ぼうという中で、なかなか考えがまとまらなかった場合とか、訳があってあまり学校に行けなかった子どももいると思う。そういった生徒の一部が四倉高校に来ているのかもしれない。この改革によって、学校が大きくなってきて、そのような子ども達を受け入れる高校を用意するのか。

【中野正人】（県立高校改革室長）
小規模の普通科の学校を選択して、進学している生徒たちが、入学できるような学校というのを考えているかということだと思う。高等学校は、入試もあり、生徒の選択によって選ばれていくというものだと思う。そうしたことで考えると、この統合校については、当然、地域の中で選択していただいた生徒については、しっかりとその意志を確認しながら受け入れることは当然行っていく。学力に課題がある、中学校時代にあまり学校に通えなかったという生徒もいるのも確かだと思う。そのような生徒の高等学校教育については、いわき地区全体で考えていく必要があると考えている。そのようなところを考えて頂きながら、統合校を目指すということであれば、しっかりと本人の意志を確認し受け入れる形になっていくと思う。高校の選択については、いわき地区全体で考えていくところが必要になってくる。

【緑川直行】(有識者)
「いわき地区全体で考える」というのは、どういう意味になるのか。

【中野正人】（県立高校改革室長）
県教委として「そのような生徒をここに入学させるようにしてください」と言うのは、入試もあり、言うことはできない。そのような中学時代に様々な経験をもっている生徒について、今現在、受け入れている高校はある。その部分も含めて、生徒、保護者の方に選択してもらうということが必要になると思っている。

【吉田靖】（有識者）
高校の選択肢が無くなることにはならないのかという、素朴な疑問がある。四倉高校の関係者の皆さんがいる中で、大変失礼かもしれないが、四倉高校を受ける学力の子たちが、四倉高校が無くなってしまったらどうなるのか。受け皿が無くなってしまう。「いわき市全体で」と言ったが、ここも受け皿となっていたと思う。なくなってしまった場合、学力的には、統合校には正直受からないでしょうから、その部分をどう考えているのかお聞きしたい。

【中野正人】（県立高校改革室長）

先程、申したように、統合校を目指して頂く生徒については、しっかりとその意志を見ながら、受け入れていく。その他、様々な状況にある生徒については、「いわき地区全体で」と言ったのは具体的な高校を言うのは控えるが、今現在、高校を選択して進んでいる生徒もいる状況にある。さらに言うと、いわき地区だけではないが、今後、更に、中学校を卒業する生徒の数がどんどん減少している状況にある。そうした中で、選択肢が無くなってしまうのではないかという話かと思うが、それを上回るような子どもの数の減り具合にもあるというところも理解して頂きたい。

【小西秀典】(平商業高校同窓会長)

先ほどもあったが、中学生が志望校を選択するにあたって、一番初めに言ったその高等専門学校が、偏差値的には一番高い、次に平工業、技術系である。それで、平商業、もしこの統合校になった場合であろう。現在ある平商業高校の各科、それが統合して何か変化があるのかなと思って見たが、受け皿の一つ、デュアルに関する受け皿の学科はあるが、流通ビジネス、情報システム、オフィス会計で、ソフトの部分を特化したい、それをどう使いこなすかということだ。したがって、その部分も含めて資格も難しいものから容易にとれるものまであるが、資格取得も含めた、どのように活用する、運用するに特化した今度の統合校は、そういう方向に進んでいくことを伝えていくべきである。

３年半後に統合校になったときに今の科の編成で、「じゃあ、何科を受けようか」といったときに、先ほど言ったその商業高校の立ち位置という話はしたが、是非これを機会に特色を出してほしい。流通ビジネス科のように、地元企業に就職をして、最終的には店長までなるんだという目標を持って入った子もいる。そういう意味では、平商業高校の長年の歴史というのが統合にはない。ですが、ＩＴ機器を使いこなす、色々なソフトを使えるようにするといった部分がどちらかというと中心にするならそれならそうでいいが。しかし、資料を見ると情報システム科の他に、情報技術科が学科の取組で出ている。

そうであれば、平工の情報技術科と今度統合する高校の情報技術科はどこが違うのか、偏差値の問題か、ということとは違うと思う。折角、統合するのであれば今まで１１０余年の歴史で商業高校の立ち位置という部分、全国の商業高校の流れで、ソフトが中心に、進んでいくのが事実だと思う。ただ、その意味を考えたときに、生徒募集として、親御さんの立場、生徒の立場でそれぞれの科の編成だとほぼ同じに見える。どちらかというと情報系のハードを作る方に行きたいから、平工業高校。しかし、統合校の情報技術科は、運用と構築の部分の両方ある。実際には深く読めば分かるが、統合校の技術系と平工の情報技術科って何が違うのだろうってなるのではないか。そういった部分で、情報システム科は必要なのかなと思う。であれば、もっと分かりやすいように、運用できる、使いこなす人を育成する高校だという部分を全国の商業高校自体がもっとアピールすれば、とずっと思っていた。でも、実際はどこもできていない。折角、統合をするのであれば、その部分がはっきりと分かるように、その中でも、偏差値という問題はあるが、最終的には２年後には統合校としての募集が始まるので、是非そこまでには新しい統合校の目指す教育内容を示してほしい。子どもや親御さんが高校を選択するときに、「昔の平商業高校、四倉高校と一緒になって、今こういう高校になったんだね」というのが分かればと思う。他の技術系の情報がつくところは、いわき市の中に４つも５つもある。であれば、同じ情報をもつ科として、統合校の特色が分かりやすい形で出せたらいいかなと思う。是非、御検討をお願いしたい。

【中野正人】（県立高校改革室長）

商業の情報系の学科「情報システム科」は、先程、説明したとおり、ＩＣＴを活用する力をしっかりと身につけることを目標にする。「情報技術科（仮称）」は、専門教科「情報」の学科である。平工業高校では、あくまでも大学科「工業」の中に設置されている情報の科目になる、基本は工業の学びになる。そのため、学ぶ内容はもちろん違ってくる。「何が違うのか」ということについては、しっかりと中学生や保護者の方に説明、アピールできるよう精査した上で、伝えていきたい。最後の部分の「今後のスケジュール」というところについて、令和５年度は、教育内容等をしっかりと検討していき、令和６年度１１月を目安に、統合校の１年生として入学する学年になる中学２年生に対して、しっかりと説明をしていきたいと考えている。そのためにも、来年度は教育内容等を練りに練って検討しながら進めていきたい。

【小平充】（平商業高校ＰＴＡ会長）

私は、郷土愛、地域の特性のところで、意見を言いたい。今、原田校長先生の方から話があったが、四倉高校は地元率が高いので生徒の気質が違う、平商業高校はいわき全体、四倉高校はそうはならないということ。地域性があるというのは初めて知った。

統合後だが、地域行事はもちろん、販売実習や商品開発など、色々と取り組むことになると思う。これは、両校だけでなくて、他の高校でもやっているが、実際はごく一部の生徒が取り組んでいるものだと思う。一部の生徒に限られていると思うので、こういうものを日常の教育プラス実習をすることで、「仕事はこうというものだ」ということがより実感できるのかなと思う。

先程から、福島高専の話が出ているが、福島高専は修学旅行がなく、インターンシップを実施している。生徒によっては１日、あるいは２泊３日、長いときには１週間ぐらい、企業に行き、企業実習をする。その体験をすることで、自分が将来思い描いていたものをイメージすることができるようになると聞いている。インターンシップに行った生徒は、自分の行った会社のことをまとめ、発表会をやる。実社会と関係を持つことによって、将来を思い描くことができるようになったということをよく高専の方から聞く。

また、四倉高校の生徒で、コミュニケーションが苦手といった話も、私は初めて聞いた。そのような部分で地域や地域の企業、そのようなところと関連を持ったカリキュラムを、なかなか難しいと思うが取り入れてもらえればと考えている。この統合を今のままでいくと、本当に四倉高校が平商業高校に取り入れられてしまうといったところだが、それに関しても幅が広がり、より一層良いものになるのではないかなと感じる。

【中野正人】（県立高校改革室長）

それぞれの学校で今、取り組んでいる内容、そのようなものは統合校でも継承していきたいと思う。また、一部の限られた生徒だけではなくという部分もあったが、可能となる部分で、検討を進めさせていただく。

【武藤與史昭】（四倉高校同窓会長）

第１回県立高校改革懇談会の中で課題をまとめて検討して頂いた。そのこともあり、１１月２９日の読売新聞紙面に「跡地利用について、内堀知事は、関係市町村と連携して、地域の実態を踏まえながら検討を深めていく、市町村の思いを後押しすることができるように必要な枠組みの検討を行うと約束した」という記事が掲載された。

総論賛成だが、１回目の懇談会が終わってから、四倉町民と話をする機会があった。県の方針にしたがうことは「少子化なので仕方がないだろう」という声が大半を占めていた。どのように進めていくべきかという部分は、「生徒の進むべき方向について、矛盾のなく、子ども達が多様性を生かしながら、自分の将来を切り拓いていく学校を作ってほしい」と言っていた。そして、この跡地の利用については、「四倉高校の体育館を残してほしい」ということが大半だった。なぜかというと、２０１１年３月１１日の東日本大震災では四倉高校は避難場所になった。避難してきたたくさんの人たちを高校の職員や生徒が対応した。生徒も職員も３月１１日から６月３０日まで、一時は２，０００人の避難者で体育館は埋まった。生徒達と職員が一緒になって、避難者の世話をし、不安を和らげてくれた。７０周年記念誌の誌面の中には、地域の方々の四倉高校に対する御礼、感謝の言葉がたくさん載っている。例えば、養護の先生は、家にも帰らないで体育館で避難者の看病をしたという話も残っている。もし、この四倉高校が無くなってしまうならば、今まで感謝してくれた方々、さらには四倉地区には安全な場所がなくなる。四倉地区では、四倉支所、四倉中学校、四倉小学校も、やはり震災にあって津波の被害を受けました。四倉高校は高台にあるので、町民はここに避難してきた。何年後にはなると思うが、四倉高校の体育館を避難所として絶対に残してほしいというのが、地域の方々の声だ。勿来地区には勿来体育館があるように、四倉地区では、四倉高校の体育館がある。もし残すことができれば、いわき市の担当の方と考えながら、運営していくことにより四倉高校の名前が残るのではないか。ここ全部取り払ってしまったならば、今までの地元住民に対する感謝の気持ちも、迎える気持ちも無くなってしまう。四倉町民の方々は、やはりこの学校が無くなることは危惧しながらも、「是非とも体育館を残してほしいと、知事に陳情すべきか」というような話をしていた。７０周年記念誌を読むとひしひしとそういう感じが伝わってくる。県の方針で、きちんとした形で子ども達の育成を見守るということに関しては、総論賛成である。

細かいことで「四倉高校の伝統をどうするのか」など、魂に触れるところはあるが、一つ一つ出すと、それに対する自分の気持ちが思いやられて、何とも言えない。大きく何か改革をするには、何かを進まなくてはならないという気持ちがありながら、生徒の気持ちになると「どうしたら良いのだろう」ということになる。そして、四倉高校で「学びなおし」という子どももいるが、その前に先生との触れ合いをどうしたら良いのかなど、いろいろあるがすべてを伝えることはできない。

できれば、四倉高校の体育館を残して、いわき市民のための北の砦にしてほしい。もし、津波が来たときには、ここの駐車場も含め全部使うと思う。今日の懇談会の内容として取り上げてもらえるならば、今後そのような形で活用できる機関があると思うので、それも同時に平行にやってもらい、子ども達のためにも、地域のためにも運用して頂ければいいと考えている。

【中野正人】（県立高校改革室長）

四倉高校の体育館はなんとか残してほしいという話だと思う。知事の方からは、１２月の議会での答弁があったが、地域の状況を把握している市町村、自治体の方としっかりと話をしていく。統合するそれぞれの地域によって、状況が違うのでしっかりと確認しながら、どのように跡地を活用していくか、校舎の活用等もしっかりと連携しながら考えていく必要があるだろうと考えている。今ほどの体育館を残してほしいという話は、今回意見として頂いたので、この部分は市町村、いわき市の方と今後話をしていくことになると思うので、情報

を共有しながら進めていくようにしたい。

【吉田靖】（有識者）
　先程、「校舎方式」という話があった。資料７ページだと、「統合と同時に、在校生の２年生、３年生も新しい学校の方に移る」という予定だが、そうではなく、「２、３年生は、卒業まで入学した学校の校舎に使わせてほしい」という要望があったということで、２パターン、つまり「令和８年の統合校開校と同時に四倉高校が閉校になる」、「あと２年、四倉高校に入学した２年生、３年生が卒業する令和１０年までは四倉高校があることになるのか」という２パターン、今のところは検討するということでよいか。

【菅野崇】(県立高校改革監)
　先ほど、四倉高校のＰＴＡ会長から、話があったが四倉高校の生徒の特性もあり、大きな学校へ通うことへの不安をもつ生徒もいるだろうという意見を頂いた。これまでもいくつか改革、再編整備という形で、学校の統合などを行っているが、基本はやはり「統合と同時に、一つの学校に集まってもらう」ということを基本としている。ただ、これまでの統合の中でも、先程、指摘があったとおり、集団で学ぶことをあまり得意としていない生徒や、少人数あるいはきめ細かい教育を期待している生徒にとっては不安になる場合があるのではないかという話があった場合に、先ほど「校舎方式」というワードが出てきたが、入学した学校で学び、それぞれの学校で卒業を迎える、統合時点で入学した生徒は統合校に最初から通う。先ほど、意見を頂いたばかりなので私たちもこれから状況を確認して検討を進めていけないと思うが、前例としてそのように対応したこともある。

【吉田靖】（有識者）
　湯本高校と遠野高校の統合でもその方式を取ったということか。１１月にいわき総合高校と好間高校の第２回改革懇談会があったが、そちらの資料では、案の一つとして県の方から「校舎方式」を示したとなっていた。なぜ、四倉高校と平商業高校の統合校では、そのような案を提案してもらえなかったのか。ホームページの方にも載っていたので、確認していました。今回、触れられていなかったので言わせてもらった。

【菅野崇】(県立高校改革監)
　結果的には、片方は提案して、片方は提案しなかったように感じられたかもしれない。実は、いわき総合高校と好間高校の第１回の改革懇談会の中で、やはり好間高校の生徒の中には、集団で学ぶことをあまり得意としていない生徒がいるという指摘を、その時点で頂いた。こちらの第１回の改革懇談会では、そのような話が出なかったと思っていた。

【吉田靖】（有識者）
　その話は、なかったでしたかね。どなたか発言しませんでしたかね。
【片寄由美】（四倉高校後援会長）
　私が言いましたよね。

【菅野崇】(県立高校改革監)
　それは、失礼した。私たちの確認不十分だった。そういったわけで、いわき総合高校と好

間高校に関しては、第２回の改革懇談会の中で「校舎方式」を検討しているという話をさせてもらった。前回御意見を頂いたという御指摘、申し訳ない。改めて今回四倉高校ＰＴＡ会長からも御指摘頂いたので、これをきちんと持ち帰り検討して、次回までには何らかの形で報告できるようにしたい。

【吉田靖】（有識者）
いわき総合高校と好間高校の改革懇談会の内容をホームページで参考までに見た。そちらだと受け入れる側のいわき総合高校で、好間地区と内郷地区の中学生と交流会をやっていたようだが、１０月１４日に。そういったことは、この平商業高校と四倉高校の統合の方では中学生たちとの意見交換的なものといのはやらないのか。もちろん、あちらの統合がやっているからこちらもやらないのかという質問ではないが。あちらの第２回の懇談会の感想としてあったので。また、先ほど緑川さんから中学生のアンケートという話があったが、四倉高校と平商業高校の統合校の場合は、スケジュールで令和６年度に受験する中学生への説明会が予定されているが、その前の段階で、何か交流会のようなものが必要なのかなとホームページを見て思った。

【中野正人】（県立高校改革室長）
まず、中学生の意見、子どもたちの意見も取り入れてはどうかという話。いわき総合・好間の改革懇談会において、地域の方から懇談会の席上で意見を頂いたのでそれを実践したというところがいわき総合・好間の取組である。今後、中学校の校長先生方との連携、協力というところも欠かせない。そのようなところも踏まえ、どういう形で実施していけるかなどを整理し、検討していきたい。

【鈴木路人】（いわき市教育委員会学校教育課管理主事）
先程、「校舎方式」という話題が出たと思う。今の現中学２年生、来年の４月には中学３年生になる。そうすると、早い段階で進路選択というところの指導も入ってくると思う。夏には体験入学等もあるので、その際、校舎方式になるのか、それとも、統合してその学校（平商業高校）に通うのかというところは、今の中学２年生が３年生になった時には重要になるのではないか。例えば、「四倉高校を選択したが、統合後は向こう（統合校）に行かなければならない」とか、そういうことも、きっと進路選択にも影響が出てくると思う。中学校でも、学校長を中心としながら、担任や学年の方で進路指導するにあたっても、きっと、そのような話題が出てくるのではないかなと思う。もし、この「校舎方式」等が進んでいくのであれば、早い段階で、各学校の方にも伝えていきたいと思うので、その際はお願いしたい。

【中野正人】（県立高校改革室長）
現在の中学２年生が来年３年生になって、最終的な進路選択する上で重要な情報、その通りだと思う。なるべく早めに情報提供できるように、あるいはこの改革懇談会を来年度以降開催し、伝えていくことも一つかと思う。いずれにしても、情報提供を早めにできるように検討を進めて参りたい。

【緑川直行】(有識者)
今の吉田さんの話を聞いていて、他の懇談会で意見が出たから提案をして、ここでは出て

ないから提案してないということだったと思う。他の懇談会で意見が出て、良いことであれば、最初から、ここに提案して出して欲しい。ここで気が付かないことだってあるだろうし、今まで、統合をやってきているのだから、良かったことと悪かったことは持っているでしょう。地元に説明してほしいということは、おそらく今まで何度も言われていると思う。そうであれば、次の年度から、統合を目指すのであれば、このような改革懇談会をやる前に、地元に説明する機会も作ることはできていたと思うし、他の懇談会で出たことはやって、ここで出ないからやっていないではなく、他で出た良いことは全部取り入れて今後進めるようにしてほしい。

【菅野崇】(県立高校改革監)

本来ならば、こちらから提案すべきという御指摘だと思う。私たちは、統合時点から一つの学校で教育活動を進めると基本的に考えていたので、それぞれの状況を聞きながら対応策を考えたいという姿勢でいた。後期実施計画の中に、前期実施計画で取り組んだもの良さ、あるいは成果と課題といったものを整備してきたものがある。その中に「校舎方式」なども記載されている。今回、頂いた意見を踏まえての対応という形になってしまうが、今の指摘を受けて、他の学校でも良い点については、紹介しながら進めていきたいと思う。

【木田努】（いわき市政策企画課長）

今回、提案頂いた部分の、統合後のカリキュラムや方向性は、時代にかなったことだということで承知している。とても良いことだと思う。しかしながら、前回の７月改革懇談会で、いわき市長が出席させて頂いた際に、話をさせて頂いたが、「地元の御意見を聞いて頂きたい」ということを、申し上げさせて頂いている。県の教育長からも「四倉地区の方々から、その学校が無くなってしまうことに対する思いとかは、しっかり受け止めた」とか、「そこで我々も地元の方々の御意見とか、学校の先生の御意見を頂戴しながら、学校作りを進めてまいりたい」という話があった。今日の議論を伺っていると、これは提案になるが、スケジュールのところの、令和５年度、結構、色んな教育内容を議論する機会があろうかと思うが、時間が許せばという形になろうかと思うが、今日出た意見ということで、地域の方々、四倉地区の方々からの意見が多くあったが、意見交換、ディスカッションの場というのが必要かなと思う。７月の際、市長からもそのような地域との議論をオープンにすることによって、いろいろな方々の意見というのが集約できるのではないかということで、みんなで、より良い方向性を指向していくべきではないかという趣旨で発言させて頂いたと思う。そのあたり意を用いていただければと思う。先程、四倉高校の校長先生からもあった地元の中学生、関連する中学生にも声を聞くことによって、私たち大人が決めるのではなくて、子ども達の意見も聞いて、柔軟に方向性を導いてはどうかと思う。四倉高校の話ばかりだが、平商業高校も含めて、進路希望の子ども達にも聞くということもあるかなと思う。

最後になるが、学び直しに係る受け皿作り等々の話があった。今、「テレワーク」や「ウェブ会議」など、社会での働き方も変わってきている。例えば、柔軟な発想で、この唯一の情報科ということの提案があったので、情報科では、自宅にいながら単位が取れるとか、場合によってはこのあたり（四倉）でもいいので、「サテライト」とか、そういった形の中で、いわゆる「受け皿作り」の一つのスキームとしてもよいのではないか。このように、ウェブ活用などの新たな情報科、切り口で、そういった議論を皆さんと知恵を出しながら、よりよいカリキュラムづくりに、来年度早々、議論を深めて頂ければ幸いである。

【菅野崇】(県立高校改革監)
　御指摘頂いたところは、私たちも多くの方の意見を聞きながら、新しい学校の魅力化や特色化というものを深めて参りたい。これからも、協力をお願いする。

あいさつ【菅野崇】(県立高校改革監)
　本日も、皆様から活発な御意見を頂戴いたしまして、ありがとうございました。前回の、御指摘頂いた点に対する考え方、四倉高校の子ども達への対応ということで、前回、対応しきれなかった部分がありまして、また、その部分の御指摘をいただきまして、小さい規模での学校での学び、手厚い指導、そういうものを期待して入ってきた子どもへの対応などもやはり検討しなければならないという課題、御指摘を頂きました。また、「情報」、その中でも「商業」といった特色の中での「情報」、これを、しっかりと特色化しまして、即戦力となるような人材を、この地域で育てていくというところの御指摘も頂戴しました。それから、特に四倉地区の人との関わり合いという部分について、強く御指摘頂きました。現在、行われている四倉高校の地域との関わりの良さを、どう引き継いでいくのか。そして、新しい学校の中でも多くの子ども達が、そのような取組に関わっていけるような、四倉との関わりをもった学びというものをどう作っていくのか。ということなどといった御指摘を頂きました。このような御意見を参考にしながら、また、いろいろな方の御意見を頂きながら、先ほど、加えて生徒達の声も聞き入れながら、という御指摘もございました。そういったことを参考にして、更に検討して次回皆様にお示しできるようにしたいと考えております。また、引き続き、皆様には、今後この懇談会の委員といたしまして、両校の発展的な統合に向けまして、お力添えを賜われればと考えてございます。本日は、お忙しいところ御出席頂きまして、ありがとうございました。

（５）　閉会